

八ヶ岳演習林「恵みの森」一般開放に向けた取り組み

井波 明宏^{a)}、杉山 昌典^{a)}、篠原 満^{b)}、永井 真理^{b)}

^{a)} 筑波大学農林技術センター技術室(八ヶ岳演習林)、^{b)} 筑波大学生命環境エリア支援室(八ヶ岳演習林)

〒384-1305 長野県南佐久郡南牧村野辺山462-4

概要

「恵みの森」は、2015 年 10 月 10 日から一般開放しました。初日は一般開放の式典と地元の野辺山にある 3 機関(国立天文台野辺山、信州大学農学部野辺山ステーション、筑波大学八ヶ岳演習林)で第 2 回の地元感謝デーのイベントを開催しました。「恵みの森」では (1)安全に森林管理を経験できる実習の場、(2)生物の保全やそれにかかわる調査・研究、(3)地域に開放し、気軽に散策できる場、(4)自前で管理できる林として、改めて当敷地内の利活用を見直しました。

キーワード：恵みの森、一般開放

1. はじめに



図 1. 「恵みの森」正門

筑波大学「恵みの森」は、長野県の八ヶ岳・川上演習林¹⁾内の 3 つある管理地のうちのひとつで、管理事務の拠点となる旧八ヶ岳演習林 5 林班と呼ばれた面積 14ha の敷地です(図 1)。国立天文台野辺山、信州大学農学部野辺山ステーションの 2 研究機関が隣接し、比較的に通便の便も良い場所です。

しかし、それとは裏腹に閉ざされた環境との印象を地元周辺に与えていたようです。これはカラマツ・ストロブマツの防風林が高さ 20m を超えるまで成長し敷地周辺を囲っていたこともあります。開設当時より学生実習、調査・研究、それらの拠点として活動してきたものの、いまひとつその存在は薄いとようでした。

八ヶ岳・川上演習林の森林管理計画(2006-2015)において、当敷地は通常管理と施設利用以外に管理方針や利活用について明確に示していませんでした。

これらを踏まえて、藤岡(現)八ヶ岳・川上演習林長が 2013 年 4 月の八ヶ岳班内の月例打ち合わせの際に八ヶ岳演習林 5 林班についての将来構想の素案を提示し、「恵みの森」構想としてスタートさせました。

そして「恵みの森」として 2015 年 10 月 10 日より一般開放しました。また、昨年が第 1 回目今年(本学が当番校)が 2 回目となる隣接 2 研究機関

と協働の地元向けイベント、地元感謝デーを一般開放初日の式典と併せ、午後の部として催しました。

2. 「恵みの森」の設計概要

キーワードは広葉樹若齢林、薪炭林、一般開放、住民参加です。敷地の利活用を大胆に改め、八ヶ岳・川上演習林の他の 2 管理地との差別化を図りました。目標、ポイントとして(1)伐採や新植等を安全に経験できる実習の場や、(2)かく乱依存型生物の保全や研究の場として活用するとともに、(3)きのこや山菜が採れて気楽に散歩できる森として地域に開放し、(4)将来にわたって直営管理できる林とすることです。

3. 管理方針

3.1 ゾーニング

森林管理計画(2006-2015)に明記された既存管理区分を変更し、「恵みの森」として、改に敷地を 1)薪炭林・若齢林ゾーン、2)見本林・保存林ゾーン、3)森の食のゾーン、4)防風林ゾーン、5)草花ゾーン、6)湿生植物ゾーンにゾーニングしました(図 2)。



図 2. 「恵みの森」三つ折りパンフレット (内面)

^{a)} E-mail: yatsuen@nourin.tsukuba.ac.jp Tel: 0267-98-2412.

¹⁾ <http://www.nourin.tsukuba.ac.jp/~forest/>

3.2 一般開放までの準備

[防風林の伐採]

防風林については、2011 年度より部分的な伐採を細々と委託で行ってきました。急速に進んだのは 2013 年度後半から 2014 年度前半で、周囲防風林は敷地北側(現見本林・保存林ゾーン)を除き一斉に伐採されました(約 6ha)。

[縦断遊歩道と歩行者用南門の新設]

恵みの森の南側に歩行者用の南門を新設(図 3)し、正門から南門までの遊歩道を整備しました(全長約 670m)。これにより、JR 野辺山駅から国立天文台野辺山までの近道となり、恵みの森を気軽に通っていただけるようになりました。恵みの森遊歩道は一部防風林伐採の残材をチップにして敷きました。

[来客用駐車場の整備]

旧宿舎跡地を恵みの森の来客用駐車場として整備しました。

[案内看板等の設置]

正門、南門、駐車場に一般開放案内看板を、また各ゾーンに説明板を設置しました。



図 3. 「恵みの森」南門と案内看板等

3.3 一般開放式典

10 月 10 日、準備不足等の不安をよそに予定通り恵みの森を一般開放しました。一般開放初日は 11 : 00 よりオープニングセレモニーを行いました。日頃お世話になっている地元の南牧村、川上村、天文台、信州大学、南佐久南部森林組合の方々をお招きしました(13 名)。また、この日のために大学から吉川理事・副学長をはじめ関係役職者の方においでいただきました(4 名)。図 4 はテープカット終了後の記念撮影です。



図 4. 記念撮影

3.4 第 2 回地元感謝デー

10 月 10 日 13 : 30 からは地元感謝デーとして、4 カ所のスポットを巡る森林・樹木ラリーを恵みの森の紹介もかね催しました。樹木当てクイズ、火おこし体験、顕微鏡ミクロ観察等を実施しました。16 : 30 からからは、3 研究機関の 3 演者による講演会と質問会を南牧村公共施設内にて実施しました。一般 76 名の参加があり、概ね好評でした。図 5 は感謝デー開催のお知らせのための A4 チラシで、新聞折り込みチラシとして地元新聞配達店、地元関係機関に配布しました。



図 5. 地元感謝デーのチラシ

4. 恵みの森の今後と課題

- ・ 2016 年度より活動できる地域住民からなる森づくりサポーター(ボランティア)を募集します。
- ・ 現段階では各ゾーンの機能をほとんど發揮できていません。樹木の生育に時間を要する等の課題もありますが、名ばかりとならないように努めます。
- ・ 急速に進めた伐採は、以前の環境を一変させました。以前の環境を調査・研究の対象に考えていた研究者等も少なからずいたと考えます。そこで、その方々のためにも、恵みの森になって良かったと思っただけの森づくりをしなくてはいけないと考えています。

謝辞

恵みの森の立役者は八ヶ岳・川上演習林長の藤岡正博准教授です。著者らは八ヶ岳・川上演習林のスタッフとして共に活動しました。ここに謹んでご指導ご鞭撻を戴き感謝申し上げます。さらに、一般開放に際し、戒能農林技術センター長、津村演習林総括、筑波実験林スタッフ、井川演習林スタッフ、筑波大学学生等、多くの方々にご支援とご協力を戴きました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。大変ありがとうございました。

Activities to the general opening of “ Megumi no mori ” at the Yatsugatake Forest

Akihiro Inami^{a)}, Masanori Sugiyama^{a)}, Mitsuru Shinohara^{b)}, Mari Nagai^{b)}

^{a)} Technical Service Office for Agricultural and Forestry Research Center, Yatsugatake Forest, University of Tsukuba,
462-4 Nobeyama, Minamimaki, Minamisakugun, Nagano, 384-1305 Japan

^{b)} Academic Service Office for the Life and Environmental Sciences Area, Yatsugatake Forest, University of Tsukuba,
462-4 Nobeyama, Minamimaki, Minamisakugun, Nagano, 384-1305 Japan

Keywords: Megumi no mori, General opening